

## 令和4年度 第1回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和4年7月22日(金) 開会 午後2時30分 閉会 午後3時30分

2. 開催場所 星雲会館2階 西風の間

3. 出席者

(1)構成員

市長 山内 登  
教育長 細田 芳充  
教育委員 細江 洋一郎  
教育委員 河尻 明子  
教育委員 小口 晃生  
教育委員 三木 朋哉  
教育委員 田中 由美

(2)市職員 【教育委員会事務局】

教育委員会事務局長 田代 浩弉  
教育委員会学校教育課長 北條 裕也  
教育委員会学校教育課対策監 益田 貴史

【まちづくり推進部事務局】

まちづくり推進部長 田谷 諭志  
まちづくり推進部企画課長 山本 大誉  
まちづくり推進部企画課主査 中島 大樹  
まちづくり推進部企画課主事 奥村 和

【スポーツ担当部局】

まちづくり推進部まちづくり推進課長 熊崎 浩  
まちづくり推進部まちづくり推進課課長補佐 熊崎 秀樹

4. 傍聴人 0人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○田谷まちづくり推進部長

皆様、こんにちは。定刻前ではございますが、出席委員の皆様方お揃いになりましたので、今年度1回目の下呂市総合教育会議を開催させていただきます。

私は、まちづくり推進部の田谷と申します。本日、司会進行を務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

まず初めに総合教育会議とは何かということ、今年度新たに本会議に出席される方もいらっしゃると思いますので、改めて簡単にご説明をさせていただきます。

総合教育会議は、大津市の中学生のいじめ問題をきっかけに、教育への首長の関わりについて見直しがなされ、平成27年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受けて、すべての地方公共団体に総合教育会議を設置するよう義務づけられたものです。

総合教育会議は市長が招集し、議題に対し、市長と教育委員会が円滑な意思疎通を図り、教育の課題及び目指す姿を共有しながら、連携して教育行政の推進を図ることを目的としております。

総合教育会議の開催は、概ね年2回から3回ほどを予定しております。

本日の議題となります「部活動の地域移行について」について、通年のメインテーマとして設定し、今年度中に、この方向性についてご協議いただければ、ありがたいと考えているところでございます。

本日の出席者のご紹介につきましては、お配りしております名簿にて代えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本日はお手元の次第に基づきまして、「部活動の地域移行について」という議題について、ご協議をいただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本会議は公開が原則となっております。事務局において、本会議の議事録を作成し、後日、ホームページ上で、公開をさせていただくこととなりますので、ご理解をお願いいたします。

また新型コロナウイルスの感染拡大の傾向がございますので、エアコンをつけつつ、窓を開けた形で開催されますことをご了承いただきたいと思います。

それでは初めに、市長からごあいさつを申し上げます。

○山内市長

こんにちは。市長の山内でございます。今回、新年度第1回目の総合教育会議ということで、メンバーも田中委員を新たに任命させていただき、新たな体制でまた1年間お願いすることになりますので、どうかよろしくごお願い申し上げます。

昨年度は、教育大綱の策定ということで、皆様方から活発なご意見をいただきまして、何度も何度も修正をかけて、大変良い教育大綱が制定されたと思っております。その節は大変ありがとうございました。

今回は、また新たなテーマということで、学校の部活の問題、それから教員の働き方改革、そして地域スポーツのあり方等々、非常にいろんなジャンルが入っています。教育をする上でも、スポーツと学校の関係というのは、今非常に注目をされているところかなと思います。

下呂市では、先進的な教員の働き方改革を教育長のもと進めておりますが、一方、子どもたちの部活や、土日・休みの時のスポーツ活動、これをどのようにしていくかということを中心とした課題として、我々、受け止めております。

会議の中で、皆様方から忌憚のないご意見を伺いながら、いい体制を作っていきたいと考えておりますので、どうぞこの1年間、ご審議のほどお願いを申し上げます。今日はよろしく願いいたします。

#### ○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶を申し上げます。

#### ○細田教育長

本日大変お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今ほど市長から申されたように、今、教育界は様々な課題が山積している状況でございます。少子化、教員の働き方改革、それに伴って教員の数が不足している状況。また、子どもの学びも数年前に「Society5.0」が打ち出され、これからの社会で生き抜くためにはどんな力が必要かといったことで、学びも大きく変わっているということがございます。そういった様々な課題について、先ほど、今回の目的・趣旨について、ご説明をいただいたところですが、この会議で協議を行っていくことはとても大切なことで、意義があるなと思っております。

今日の議題に挙がっています、「部活動の地域移行」につきましても、これも先ほど市長の方から話がありましたが、昨年度本当に何回も時間をかけ、皆様の貴重なご意見をいただいて、策定しました教育大綱にスポーツの事項が掲げられていますが、休日部活動の地域移行に向け、活動場所の確保と健全で高い技術指導が受けられる環境を作りますといった文言に則って、話を進めていただくということです。主役は子どもたちでございますので、子どもたちにとってよい形ができることを願っております。どうか、また貴重なご意見いただきますようよろしくお願いいたします。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。それでは早速ですけれども、議題に入らせていただきます。

議題は、「部活動の地域移行について」ということで、教育委員会事務局から説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○益田対策監

学校教育課対策監の益田貴史と申します。どうかよろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。

皆様ご承知のように、すでに新聞等で今年の5月にスポーツ庁の方から、部活動の地域移行をするよというということで、全国展開されました。令和5年度から7年度までの間に体制を整えて、令和8年度から地域移行スタートということになるわけですが、令和4年度はその準備として、「合同部活動のさらなる推進」、「生徒移動手段の確保」、「指導者バンク」の3つの取り組みについて取り組んでいるところであります。

ちなみに令和3年度は、1つの中学校で試行したところです。令和4年度からは自治体ごとに、すべての中学校で地域移行できるようにということでの取り組みをさせていただいております。まず1つ目の合同部活動のさらなる推進ということですが、今、校長会とタイアップしています。下呂市はこれまでも、子供の数が減ってきている状況で、自分の学校だけでは、部活動がままならないという状況があり、学校の垣根を外して、部活動を行っております。

例えば野球ですと、南中、北中、小坂中、それから下呂中、竹原中というように合同の野球部があります。ちなみにですが、昨日地区大会で、この南中・北中・小坂中の野球部は地区優勝しました。その成果も出てきているということを思います。

こうした自分がやりたい部活を今まではできなかったけども、やれる環境ができてきたというところで、子供たちが主役の部活動は実現できております。

今後、合同部活動についてはさらなる推進をしていながら、子供たちのニーズに合った部活動の展開を確立していきたいなと思っております。

その中で2つ目の取り組みですが、生徒の移動手段の確保ということで合同部活動をやる時には、どうしても拠点校に集まらないと練習ができないということがございます。そこに関して教育委員会としましては、スクールバスを出しております、A校、B校を拾って、拠点校へ行く。そしてまた戻るわけですが、これを、金山から下呂、それから小坂から南中を拾って下呂という、北から1本と南から1本、合計2本バスを出しております。

課題としては、スクールバスを出しているのですが、圧倒的に予算が不足している状況です。昨年度コロナ禍にあって、まん防等で部活動の実績がないために、今年度の予算が50万円削られ、180万円の予算額となっており、月換算しますと、月2回しか稼働ができない状況があります。

保護者として何が一番困っているのかといいますと、夏休みや冬休みの平日の送り迎えです。土日は保護者で何とかできるよとおっしゃってくださる方もみえますが、平日に関してはできないので、何とか夏休みに10回と冬休み2、3回ぐらいは平日に確保できるぐらいはプラスアルファできるといいなと考えているところです。

3つ目は指導者バンクということで、社会人コーチと呼ばれる方々のことですが、正式には外部指導者と言います。下呂市には今49名の方がお見えです。そのうち、予算をつけて活動していただいている方は33名います。この33名の方には大変申し訳ないですけども、年間36,000円という上限で働いていただいています。月3回だと1回の活動での報酬は、1,000円程度ということになっているのですが、ここについても報酬を上げていけるようにしたいなということと、33人ではなくて、40人、50人と部活動指導員も増やしていきたいなと思っております。

まず来年度から一番やらなければいけないのは、休日の部活動における指導者を今は学校の先生が行っていますが、それを下呂市の部活動指導員に少しずつ移行していきたいなと思っております。

人材の確保はどうしていくのかということですが、この部活動指導員に関しましては、現在、外部指導者として行っているコーチに趣旨を理解していただいた上で、研修を受けていただき、下呂市の部活動指導員ということで、市教委から今年度後期の10月から委嘱していきたいと思っております。ゆくゆくは市教委の手を離れて地域の受け皿として担っていただけたところに、移行していけるといいなと思っております。100%じゃなくても、市教委も関わりつつも、そういう形がとれていくといいなということをおもっています。

また、やりがいを持って部活をやってみえる学校の先生方もいて、ぜひ携わりたいという方もございますので、先生方にもアンケートをとって、休日に教員じゃない立場で活動していただけるような環境も整えていきたいなということをおもっています。

部活動指導員と外部指導者の一番の違いは、単独で指導ができて大会等の引率ができる、つまり顧問と全く同じ動きができるということです。

こちらに関しましても、予算を確保していける部分をまた算出しまして、何とかやっていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。以上です。

#### ○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。教育委員会からの説明でございました。

スポーツ振興については、私どものまちづくり推進部まちづくり推進課が所管をさせていただいております。受け皿となりうる地域の側からの課題というところに絞って、手短にお伝えをさせていただこうと思っておりますので、まちづくり推進課からよろしくお願ひいたします。

○熊崎まちづくり推進課長

まちづくり推進課長の熊崎でございます。

今、教育委員会からご説明をいただきました。私どもも、このスキームは認識をしております、一緒に考えさせていただいているところですが、地域の側からの課題というところで、地域への移行に関して、地域側というか社会人指導者、そういう組織からの声が、まだそんなに吸い上げられてないというか、その声をしっかり聞きながらというところが、やっていかなきゃいけないのかなと思っております。

これを移行した後、どう持続していくか。部活動の意義、学校で行っている活動の意義みたいなものを継承していくというところは、非常に大事だと思っております。社会人指導者もかなり高齢化しておるような状況もあって、若い指導者の確保も大事になってきます。これは子供たちのスポーツに限らず、地域のスポーツ、社会人スポーツも含めてでありますけれども、そこも一緒になって持続できるような仕組みも必要かなと思います。ましてや、その部活動の意義を持った活動の継承ということになると、先ほど益田先生も言われたように、それなりの報酬などの予算も確保していく必要はありますし、社会人指導者のやりがいといいますか、意義もしっかり理解していただくというところが大事であって、今後合意を図っていく上での課題かなというところを感じております。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。教育委員会事務局、スポーツ振興の立場からご説明をいただきました。

それでは今の説明に対しまして、委員の皆様からご意見等々をお伺いしたいと思います。ご意見ございますでしょうか。

順に発言をしていただくようにさせていただければと思いますが、三木委員さんからお願いできますでしょうか。

○三木委員

今のご説明の中で、質問よろしいでしょうか。

まず、指導者バンクの委嘱を、市教委から将来は下呂市へというのは、教育委員会からまちづくり推進課への移行という意味合いですか。

○益田対策監

はい、そこも含めて考えております。

○三木委員

主導が下呂市にということですね。

それと、拠点校についてですが、この拠点校の定義については現在のところ、どのようになっていますか。

○益田対策監

基本的に下呂中学校と萩原南中学校が最大規模の部活動の数を持っているので、下呂中学校と南中学校というのが1つの拠点としながら、そのときに活動が室内の場所の取り合いになってしまっはいけないので、基本は萩原南、下呂中学校というような大きなところに集まるようにしていますが、例えば剣道は竹原中学校で行うということも考えています。

○三木委員

その上で意見をよろしいでしょうか。

私は今、人口が段々と少なくなっている小坂ですので、やはり小坂からするとどうしても生徒が部活をするうえで、人数の確保ができないことで、こういう合同の部活があることによって、特に野球をやっている子から、距離があって大変ではあるが、野球を続けられて楽しいといった声を聞きました。以前だったら高山の中学校に行かないとできなかったこともあったそうです。

そういう意味ではすごくいいことだなと思います。ただ、やっぱり、生徒中心に考えた時に、できるっていう喜びもありながら、どうしても移動手段がどうであれ、距離の問題、そして数の論理だけでは割り切れないようなものもあると思います。設備がすごく整っていて、そこでやれるってことはすごく大切だと思う一方で、同じことができるけれど、やっぱり数が少ないから拠点校と言われるところに行かないといけない。じゃあ、逆の発想はないのか。それぞれの学校で練習を行うことも、おそらくできると思います。よほどの設備の優劣がない限りですが。

何かそういうことからすると、先ほどの保護者の送り迎えの件ですが、下呂・萩原はあまり支障はないけれど、他のところは少し遠くなってくる。どうしてもそうならざるを得ないところがあるけれど、じゃあ、今回は小坂でやろう、金山でやろうっていうようなことが起こってもいいのではないかと感じました。

ただ、当然先ほどのバスのやりくりの問題などが出てきますので、もっと複雑になるのかもしれませんが、これが単純に住民感情ということだけでなく、やはり子どもにとっても、下呂・萩原の子が小坂に来て練習するメリットもあるのではないかというふうに思います。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。続いて田中委員さんお願いできますでしょうか。

○田中委員

私の息子が萩原南中のテニス部にいまして、外部指導者の年間手当が36,000円と聞いてすごく驚きました。県大会へ行ったりする出張費や手当が部費からは出ていないと聞いたので、現在個人で負担されているのだなと思いました。外部指導者の方が、もっとやりがいがあり、ある程度の報酬も受けることができ、多くの方が携わっていただけるような環境が必要かなと思いました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございます。続いて小口委員さんお願いできますでしょうか。

○小口委員

ずっと考えていたことを先ほど教育長がご挨拶の中で言われたので、同じだなと思いました。

この間までここで教育大綱について話し合っていて、教育大綱とこれがどう関わってくるのかなってことを思っていました。

スポーツ庁が言っているからとか、子どもが減っているからやるということではなくて、下呂市は教育大綱として、地域、家庭、学校が連携してやりますよというような方向性が出ているので、その中の1つとして合同部活動も捉えていく。そういう視点があるといいなと強く思いました。

今まで、何でこれをやるのだろうとずっと思っていて、国の方針ではなくて、下呂市としてこう考えてやっていますよっていうのが、さらに明確になるということをおもいました。教育大綱の4番目のことに関わってくる。そんなことを思っていました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございます。続いて河尻委員さんお願いできますでしょうか。

○河尻委員

先ほど部活動の指導員として、顧問の先生と同じだけの権限を持って大会等に引率して下さっているというお話もあったのですが、例えば移動時間も含めて、事故とか怪我とかの補償も顧問の先生と同じような内容で補償されるのかということをお伺いしたいのと、合同部活動をやっている中に吹奏楽以外の文化部はどのようにしているのか。合同でやっていないのか、機会があった時だけ移動されているのかということをお伺いしたい。

それと下呂市部活動の実態についてですが、人数が足りないから一緒になってやろうという以外に、より専門的な知識や情報、指導を求めるために、専門知識を持った指導者の下に集まってくるのか、場所が変わっても指導者が移動してくてくれるのか、そういったことは子どもにとっ



では良いことだと思うので、なるべく平等に指導が受けられることが望ましいのかなと思いました。

先ほどの三木委員が言われたように、決まったところばかりに行くのではなくて、指導者の方が移動して下さるとか、そういった方法も取り入れていけたらいいなと思いました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。ご質問について回答できますか。

○益田対策監

まず1点目の部活動指導員の補償についてですが、今のところ教員のような予算が組めないということを思っております。県にもお願いしているところですが、令和8年度には、教員の土日にいただいている部活動の手当が切られるというのを噂で聞いておりまして、なんとかその財源を確保していただいて、その財源を部活動指導員に充てられるようにしていただけるとありがたいなと思っています。下呂市としても財源を確保していけるといいなと思っておりますが、現状先ほども説明しましたが年間36,000円という金額で、頭を下げて行っている状況です。

2つ目の文化部についてですが、吹奏楽は、下呂中と金山中は合同で行っておりまして、コンクールに向けて必死に練習しております。これとは別に、萩原南中学校も吹奏楽部がありますが、萩原南中学校については単独で行っております。2つを合わせると母体が大きすぎて、コンクールに参加できるのが30人ぐらいであるため、参加が難しくなるので分かれて練習しているところです。

3つ目ですけれど、先ほど三木委員さんもおっしゃってみえたように、場所をローテーションすることで地域の方とのふれあいとか、小口委員さんがおっしゃってみえたように教育大綱の原点にかえて合同部活動の意義ということについても、まちづくり推進課の課長さんもおっしゃってみえたように本当に子どものために地域の宝づくりということで、ふるさとを大事にしていく子どもにしていきたいなと思っています。

○北條学校教育課長

学校教育課長の北條でございます。今の質問の1つ目のことで補償の話で、例えば教員だったら、仕事で行っているので補償はあるのですが、これが地域部活動の指導者となった場合、今の状態では何も補償はないので、例えば保険に入るとか、そのところを考えていかなければならないというのも1つの課題です。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。続いて、細江委員さんお願いできますか。

○細江委員

いくつか気になった点がありました。その中で1つ、益田先生が説明された指導者のことなのですが、指導者バンクの登録が49名で、その内33名が報酬ありという話で、競技は色々な競技がありますし、指導者に関しても、おそらく一般の社会人かなと思うのですが、登録者バンクということは、募集をかけて、その中からお願いをしている形になるのですか。

その場合の報酬が1回1,000円というのは、安いのか高いのかはよくわかりませんが、私は下呂中と益田清風で娘がずっとバレーボールをしていましたので、部活動にずっと携わっておりました。

その中でちょっと1つだけ、指導者に関しては、ボランティアということで、多少経費にかかった分はお支払いすることもありましたが、指導者の方は純粋にスポーツを愛して、生徒を指導することを生きがいにしていて、そういう指導者が多かったです。あまりにも熱意がありすぎて学校とぶつかることが多々ありました。

指導者に関しては、やっぱりそういう形で外部の指導者を募集する。ここでいう登録バンクで枠を広げて、その中からお願いする。ただ、1人、2人でなくて、もっと大勢の方で連携を取りながら行えば、その人に対する負担も軽減できるのではないかなということを考えたりします。

それと、合同部活はすごく良い考えで、感心いたしました。ただ、距離的な問題で、1つ気になったのは、例えばバレー部で言えば、下呂中と小坂中では少し距離がありすぎるかなと思います。仕方ないにしても、もっと近い距離でできないですか。下呂・小坂だと普通40分くらいかかります。

これはちょっと移動の距離、時間として部活の中に収めるのは、少し難しいかなと思いました。できたら単独の練習を週2日設けて、合同練習を週1日、2日という形で、効率よく、バレーボールは団体競技ですから、団体で集まらないとなかなかローテーションの練習もできないので、そういう練習の工夫が必要かなと思いました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。委員の皆様方からは、少人数の学校への移動ってということをお考えになっていただければというご意見。それから、年間36,000円の指導手当が非常に少ないのではないかというご意見。そして、教育大綱、地域・家庭・学校の連携による地域部活動への移行という視点を持つべきというご意見。あと、補償の問題とか文化部の問題、そして、よりよい効率的な時間、専門的な知識が伝わるようなそういった視点も持てるといいなという話もいただきま

した。

教育長、皆様方からこういった形でご意見いただきましたけれども、もう少し議論して、深めていただきたいなというところがございましたら、ご意見いただければ幸いです。

#### ○細田教育長

参考になるかわかりませんが、話を聞いていた中で思ったことや、思いついたことを述べさせていただくと、先ほど熊崎課長から言われた部活動の意義を継承していく必要があるというのはとても大事だなと思います。

ここに1つ非常にねじれがあって、先ほどからスポーツ庁からの通知だと言っていますが、なぜ文科省ではないのかと思いませんか。

部活動は、教育課程のように授業でこれだけやりなさいなんていうものではなく、各学校に任せられたものになりますが、教育の意義としてはとても大きいものがあります。そういうものを考えると、単に中学校の先生が部活動を担当すると忙しくて、時間外勤務が増えて、今の働き方改革の中で到底やっていけないから地域に丸投げするという感覚ではもちろんありません。それよりも少子化で、野球をやりたくても3人しか集まらないのでできない。そういう子にとって、合同部活はやりたいことができる、打ち込める良さがある。先ほど河尻委員がおっしゃっていたことに似たことですが、専門的な指導を受けやすくなる。学校によっては野球部出身の先生ばかりが必ずいるかっていうとそういうわけではなく、中には他の競技をやってみられた方が一回もやったことがない競技の顧問をお願いされたケースもあります。そういうことから考えると教育的な意義も考えていかないといけない。

それからやはり予算です。報酬費、移動費等々ですが、国はあまり出してくれない。スポーツくじのtotoの助成を使うなんて話もあります。

あと、この辺りはまだ確定したわけではないですが、今のところ国は、部活動の「休日」の地域移行に向けて動いていますが、いずれ「平日」も地域移行を目論んでいます。そういうことから、学校だけに限らず、冒頭でおっしゃった下呂市として考えていく必要になるということで、皆さんにお願いしたいなと思っています。

#### ○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございます。教育長からもお話をいただきました。もう一度各委員さんにご意見をお伺いできればと思っていますけれども、他の委員さんのご意見、ご質問、それから教育長のお話を踏まえて、今一度ご意見を頂戴できればありがたいと思います。三木委員さんいかがでしょうか。

○三木委員

今、教育長が言ったようなことを念頭に、以前、教育大綱の話をしていた時に、学校がなくなってしまうような地域が段々と出てくる中で、それを地域と保護者で子どもの教育を考えていく。子どもを中心として地域、学校、家庭の3つが連携・協働していく教育大綱の目指す姿だったと思います。

そこで、学校というものが無くなってしまふ地域、今回の部活で言えば、先ほどの話に繋がるかもしれませんが、地元の学校で部活ができないというふうになった時に、どうしてもあの3つの要素が1つ欠けてしまったデメリットがすごく大きいと思います。学校ばかりに教育を押し付けてきた今までと、それが地域、学校、保護者がそれぞれの立場で子どもの教育をしていくという流れがある中で、どうしても主を担っていた学校が活動の場でなくなってしまうということは、地域にとっても子どもにとってもすごく大きなことなのではないかと思います。それを今、下呂市という大きな枠でやっていこうという話なのですが、やっぱりどうしても距離の問題ということだけでは収まらない何か、非常に表現しにくいのですが、学校が担ってきた部分も残ってほしいなと思います。そうじゃないと今のお話の令和8年、もしくは今後部活動が学校というところからまったく切り離されてしまった時に表現できない不安があります。これからの4年間の中で、教育を受ける子どもたちが試験的に使われることがないように、今できることを学校と保護者と地域が、過渡期にある子どもたちに、一生懸命に何の不安もなくできるような環境をまずこの4年間專注することが当然第一ですし、その後の部活空白地域が作られないような仕組みが必要であると思いました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。田中委員さんいかがですか。

○田中委員

私は保護者に対し、合同部活動になることについて、現在決まっていることだけでも説明があっても良いのではないかと思います。現在活動をしている中学1・2年生は中総体が終わって、また新しく始まっていきますし、小学校6年生の親から噂で間違った情報が伝わって、子どもたちも、例えば下呂市の北部と南部で分かれて、これから合同で部活があるんだよってという話を聞いたりもするので、説明があるといいのかなと思いました。

○北條学校教育課長

ありがとうございます。方策はまだ考えていないですが、何らかの方法で伝わるようなことはしていきたいと考えております。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。小口委員さんいかがですか。

○小口委員

中体連はまだ続くのでしょうか。

○益田対策監

来年度いよいよこういった合体した学校が出てくる。もしくはクラブチームが出てくることも想定して、令和5年度からはOKになっていますので、来年度も中体連は続きます。それ以降については、令和8年度を境にどうなのかなとか、そういう話はでていません。

○小口委員

なぜこのような質問をしたかという、部活動を地域部活動にするという話ですが、聞いてみると、部活動からスポーツクラブに変わっていくように感じました。

部活動が続くのかということが一番疑問ですが、今の話では、どうも部活動がなくなって、最後は地域のクラブになっていくのかなと思われまます。合同になっても部活動は続くのでしょうか。

○益田対策監

私も非常にナーバスな問題だと思っております。先ほど教育長も言われたように丸投げする気は毛頭ありません。平日は部活動をやるしか、今の現状はないです。

正直手放したくないという思いもありながら、言えない立場でもあり、進めていかなければいけないものですので、進めているところです。例えば、私個人の意見としては、平日部活動は残していきつつ、地域部活動として活動していくのも1つのやり方なのかなというのは、これを進めながら思っております。ですので、その大切な教育的意義を踏まえ、学校から手放すばかりではなく、その部分も見極めながら3年間やっていくことは大事だと思っておりますので、脈々と繋いでいきたいなと思っております。

○小口委員

もう一つは、私自身他の地区から下呂へ帰ってきて、旧益田郡の時に新しい言葉を知りました。「夜部活」という言葉です。他のところでは夜部活はありませんでした。ところが下呂では夜でも部活をやっていました。

授業が終わり、ご飯を食べてきて、練習するというもので、旧益田郡にいるうちに、いつの間にか疑問に感じなくなりましたが、指導者は地域の方がやっていた、平日は休みの時だけっ

て言いますが、夜の活動が増えて、子どもたちの負担も大きくなるような心配もあります。地域の方にボランティアでやってもらうことはありがたいことですが、その分、過熱しすぎてしまう可能性も出てくるのではないかと心配しています。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。河尻委員さんお願いいたします。

○河尻委員

指導者の集め方について、今現在は、欲しい人数に届いていないというお話だったと思いますが、今までの集め方と今後どのようにして人数を増やしていくのか。具体的には、誰がどういう人に声をかけて集めるのか。例えば、部活をやっている中で推薦があるのか、立候補制をとるのか、公募みたいな形で下呂市の広報に載せて募集をかけるのか、具体的に何か予定されているものはありますか。

○益田対策監

本年度は準備段階ということでやっていきたいことは、今の外部指導者に対して予算が1年間36,000円ありますので、後期は部活動指導員としてお願いをしたいなということを思っています。新しい指導者を探すということは時間もご理解も難しいと思いますので、今お見えの方に理解していただけるように話をしていきたいなと思っています。

そして、現在の社会人コーチの決め方ですが、下呂市に部活動方針というものがありまして、その中では学校長が、育成会と顧問等で共有して、その人をコーチとして良いかということで、学校長が委嘱しているのが現状です。

今まで長い間コーチをしていた人が、長時間練習をさせてしまったということもありましたので、そういうことがないように今年度の後期からは下呂市教委の方で学校長にも確認しまして、これからは市教委から委嘱をして、この政策をご理解していただけるように進めていきたいなということを考えております。

これから先の令和5年度以降については、何か方法を考えていく上で、公募というお話はいい方法だと思いました。私たちはどうしても中学校3年間だけのことしか見えないので、まちづくり推進課の方でスポーツ協会など幅広い知識とか、繋がりを持っている方でやっていけるような形を作りたいと思っています。もちろん今の指導者の方々もそこへ手を挙げて入っていただけることも大事なと思います。少しでも動きについて知っていただけるように、広報していかなければいけないなとすごく感じております。

○河尻委員

今は学校長からの委嘱という形でされているのが合同になった場合、違うところで教えるとなると、例えばA校から委嘱を受けているが、教えている子供たちはA校以外からきている場合も出てきますので、そういう場合も想定し、委嘱するということにならっていくということでしょうか。

○益田対策監

おっしゃる通りで、今までは学校長が学校のためのコーチを選んでおりましたが、これからは合同部活動という形になった場合でも活動ができるように、どこの生徒でも教えていけるように市教委から委嘱していくというのが1つの狙いがあります。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。細江委員さんお願いできますか。

○細江委員

地域部活動の指導者のメインは社会人コーチにするということで、学校の先生は顧問的な肩書にするという形をとるということですか。部活の遠征の時に誘導するとか、事務的なことを顧問の先生が行い、メインの指導は社会人コーチにお任せするという流れになりますか。

○益田対策監

ゆくゆくは教員が行っている事務的なこと、例えば練習試合を組む時に、相手に連絡をして、いつやるというようなことや、大会への登録や保護者への連絡についても、地域移行できればなと思います。

幸か不幸か、平日部活動が残るということは、そういったことを教員がやりつつ、サポートできることはしながらやれるのかなと思います。純粋にスポーツの指導だけではなくて、そういったものをひっくるめて移行した時に、地域移行かなと思いますけども、これには3年で果たしていけるのかどうかというのは、申し訳ありませんが、私もやりながら不安視をしています。

○細江委員

娘がバレーボールをやっていて気づいたのですが、西濃や岐阜地区などバレーボールが盛んな地域は、とにかく学校の先生が中心になって強豪校同士で練習をしています。

下呂に関してはそういう風習が全くありません。せっかく益田清風高校の卒業生でスポーツで大学まで行って先生になった子が何人もいるのに、小学校で教鞭をとっているということがあり

ますので、もったいないと思っています。先ほど益田先生の方から部活動が地域移行することで部活動指導員として放課後参加できるという嬉しい話があったものですから、おそらく小学校の教員で、まだバレーボールに関心のある先生方は、自分の出身校へ行って教えるとか、そういうことが今後あるのだなと思って期待を持ちました。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。冒頭にも申し上げましたが、本日のテーマはこの通年のテーマとして、皆様方にご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

本日は時間も下がってきましたので、そろそろ、本日のまとめに入らせていただきたいと思えます。教育長、最後に何かございますでしょうか。

○細田教育長

色々ご意見いただきましてありがとうございます。これはどう、あれはどうと考え始めると段々と難しくなってきます。本議題については、全国どこも戸惑いがある大きな課題です。やはり今までにはない視点からのアイデアをこれからいただきたいと思うのが1つです。

もう1つは先ほど中体連の話が出ましたが、そういえばそういうこともあったなと思いました。

個人的に、先ほども言った部活動の果たしてきた意義として、仲間と一緒に一つの目標に向かって取り組み、勝っても負けても、最後に涙してという光景が好きなんです。思春期にとってあの体験というのは大事だと思いますし、そういった教育的視点からとか、指導者という点から見るとやっぱり中学生だけがスポーツをしているわけではないので、下呂市の生涯スポーツということも考えていかないといけない。要は社会スポーツの協力なくして解決していかないだろうなということです。

市長がよくスポーツはとても元気が出るし、人の動きも起こってくるし、下呂市の活気に繋がるよってというような話をしてくださるのですが、まさしくそういうことだなって思って、部活動の地域移行をきっかけに下呂市のスポーツ振興、生涯スポーツの発展を考えていければなと思えます。

○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。それでは最後に市長から今回の会議の総括の言葉をいただければと思いますが、よろしく願います。

○山内市長

問題点がいっぱいあって、委員の方々からもですが、色々な指摘とか、素朴な疑問を投げか



けていただきました。

我々、市としても、教育委員会からのご提案なのか、文科省からの方針なのか、スポーツ庁からの方針なのか。先ほど教育長からの話にもあったように、どこからのどういうふうなものが降りてきて、進めていくものなのかというのが、まだ今ひとつ理解ができないところがあります。

最終的には先ほどの委嘱の話もそうですが、教育長から市長に変わってくるということは、責任は市になります。でも我々に責任が移った時に、どうやって体制を作っていくのかということになると、教育委員会から投げられても、それを受けるだけの器ができていません。本当に教育委員会と色々な話をしながらやらないと難しい。

例えば、委員会から色々ございました指導者の方々の補償の問題とか、委嘱を市長がした時に、彼らに対するコンプライアンスとか、いわゆる体罰の問題とか、ガバナンスの問題、誰がどう仕切るのかと考えた時に、我々が仕切るためには、下呂市のスポーツ協会を使うのか。どういう受け皿の中で彼らを我々が委嘱していくのか。全く単独の個人、いわゆる社会人コーチという一個人として委嘱していくのかどうかなど、様々な課題があります。

それぞれの方にやり方がありますから、型にはめて管理するというのも難しく、でも何かあれば当然、我々とするとうどういうコンプライアンスをやったのか、どういうガバナンスを効かしているのかって話になると、これは難しいなというところがあります。

タイムスケジュールは、ある程度あるのかどうかということをお伺いしたいのと、我々もそこにあたって本当に市民の方々の協力、スポーツクラブの育成、スポーツクラブがどういうふうを受けられるのかというところも協議する必要があります。

体育施設の関係でも、拠点校だけで活動していれば、使わない体育館はどんどん傷んでいきます。我々とするとう使うものは、すべて同じように使っていただいた方が、維持管理の点からもいいのかなと思うし、三木委員がおっしゃることは大変理にかなっているなとも私思います。

予算についてもスクールバスの180万円の補助や、外部指導者に対して年36,000円しか出てないというのは、あんまり存じ上げておりませんでした。教育委員会の予算でも、今までそこにあまりスポットが当たっておらず、本来ならこういう問題が出てくれば、とても36,000円でやってくださいなんて言えません。やはりそこは、予算をしっかりと確保しないとならないということなど、いろいろな問題があります。

もし教育委員会でタイムスケジュールがあるならば、そこに向かって考えないといけませんが、市民の合意形成には相当な時間がかかると思います。

非常に大きなテーマとしてやっていく必要がありますが、将来的には今の部活動は平日は15時半から16時半までは学校で行い、週末の部活動を地域移行してやっていく。

しかし、平日についても将来的にはどうなるかわからないというようなところもあるということで、もちろん国からのお達しにもよりますが、例えば教育委員会で週末の部活動の移行につい

ては、いつまでにやりたいとか具体的な案はありますか。その辺りについてお聞かせいただければと思います。

○益田対策監

ロードマップを作成させていただいております。国からは令和5、6、7年の間で、教師ではない指導者が合同部活動を教えていける環境を令和8年度までに作りなさいという通達がありますので、そこを目標にしていきながら、取り組んでいるところです。地域の指導者を育成しつつ、大事な部活動の意義をその方々に伝えながら、保護者にも理解していただきながら、来年度からの3年間で、1つの完成系を目指すということが、各自治体に今求められているところです。

○山内市長

3年間で教師ではない指導者による部活動が、可能な限り100%すべて移行していく。それは、平日についてもでしょうか。

○益田対策監

いえ、休日についてです。

段階的にできる地域は平日もやりなさいという話もあります。例えば、民間のスポーツ団体があるところ、スポーツクラブがあるところは、平日にもそこへ行けますので、お家へ帰って塾に行くみたいな感じで行ける環境があるところはできますが、下呂市では、やっぱり平日は部活動でということになると思います。

○山内市長

小口委員がおっしゃったように、民間の営利団体のスポーツクラブに入るってことは、もう勝負の世界になってきます。やっぱり勝負の世界で強い子をどんどん育成していこうという傾向になってくると、どんどん都会の方には集約していきます。

どんどん選抜して集めて、強いチームを作っていくっていう話になってくると、非常に疑問に思います。

すべてスポーツは私立が強い状況で、公立しかない下呂市のような地域にとっては、子供たちにとっても寂しい環境で、スポーツをしていく上で地域的に見たスポーツ環境というのは相当な差がある。

僕らにするとその人口の流出という意味でも、先ほど教育長がおっしゃったようにスポーツはまちを元気にするのですが、そういう意味でスポーツが廃れていき、そういう環境がなくなっていくと、やっぱりそれは資源がどんどん淘汰されていってしまうのではないかという危惧を持っ

ています。

そのあたりは教育委員の方々に、ある意味そういうことも協議してもらいたい。いちスポーツのそういう制度だっていうのではなくて、人口減少に僕は結びついて将来いつてしまうのではないか。こんなところではスポーツもできないとこだって言われることが一番我々にとって悲しい話になってきます。スポーツクラブ化っていうなら、我々がスポーツクラブというものをよっぽどしっかりしたものを作らないといけないなという思いが出てきます。

スポーツクラブを下呂市で活性化して行って、指導者の方々を中心に、いろんな方々にもどんどん入ってきていただいて、スポーツクラブとして育成していくという元気のあるまちづくりをしていく、ある意味1つのきっかけかもしれないし、1つ間違うと失敗するかもしれないので、ここは大事なことだなという、印象しかありません。

これはこの3年間、本当にいろんなテーマも出てくるでしょうが、この総合教育会議の中では、是非ともその都度、少しずつ、1歩ずつ進むためにも、委員のご意見はぜひとも伺いたいと思います。今回入っていただいた田中委員はお子さんが実際に部活動をやっているのです、そういった方々の意見もしっかり聞きながらやっていきたいなと思います。ぜひともまたこのテーマは非常に大事だと思いますので、今後も引き続きご協議していただければと思っております。

#### ○田谷まちづくり推進部長

ありがとうございました。本日は、大変ご多忙の中お集まりをいただき、ありがとうございました。これをもちまして、令和4年度第1回下呂市総合教育会議を終了させていただきます。

次回の開催につきましては、日程が決定し次第、事務局から追ってご連絡をさせていただきます。お疲れ様でございました。